

- 1 会議名 議会運営委員会
2 日 時 令和元年6月3日(月)
開会 午後2時00分
閉会 午後2時45分
3 場 所 正・副議長応接室
4 出席委員 (委員長) 須藤智子 (副委員長) 鬼頭博和
(委員) 片岡健一郎、堀 巖、榊谷規子
5 出席議員 梅村均議長、関戸郁文副議長、宮川隆議員
6 説明員 議会事務局長 隅田昌輝
7 委員長あいさつ
8 議長あいさつ
9 協議事項

(1) 議会基本条例の逐条解説について

須藤委員長：みなさん目を通していただいたと思います。よろしいでしょうか。1年前からやっている。よろしいですか。

各委員：了承する。

(2) 実施計画について

須藤委員長：ICTの予算の実施計画について。前回やった時に、みなさんの意見を聞きました、各会派の。共産党の木村さんと榊谷さんは意見が違っていた。榊谷さんは出せということだった、予算の実施計画、木村さんは、全員の、話し合いもして、特に出せとは言ってなかった。出すことはそれから考えてもいいのではないかと記憶する。

榊谷委員：だったかね。

鬼頭委員：あの時はいろいろな意見が出て、ゼロからスタートするとか、意見が出たが、木村議員が最後に、執行機関と話をしながら進めたほうがいいのではないかと。もう一度議会の中で意見を諮った方が良いのではないかとという話だったと記憶している。

須藤委員長：予算を計上するのは、それが決まってからでも良いのではないかと思う。

榊谷委員：議運の中では...

須藤委員長：議運に戻された。そこが決定機関ではないから議運でもう一度諮ってくれということで。議運の中でも賛否ありますので。

榊谷委員：昨年までの段階のものをゼロにして良いのかということが問われていると思う。

須藤委員長：前出したのも、全員賛成で出したわけではない、予算の計上は。

堀委員：全員賛成とかそういうことではなくて、議会として議長の責任において昨年を出した。議会として出した。それは事実。それを取り下げるといふことは、私は実施計画の担当で何年もやってきたが、予算と実施計画とは明らかに違っていて、姿勢なんだよね、担当課から、例えば、予算を1円でも挙げておいて、全く執行せずに3年経ったり、つまり、実施計画に挙げる挙げないというのは、姿勢の問題である。議会として姿勢を見せた以上、意見の違いがあるにせよ、それは出し続けないと、議会改革という大筋のベクトルからいくと後退してしまう。

須藤委員長：私はそうは思わない。

堀委員：まさに意見の違いだが、小さなことでこだわって出さないというのは、執行機関の言い分、この前、宮川さんが、執行機関の答弁は100パーセント正しいとは限らない、それについて議会がどうなのかというところを再検討していない。執行機関の言い分がどうなのかということをしていない。それは的を外しているという意見もあるし、100パーセントその通りだという意見はないと思うが、取り下げるといふ決意を、議長が変わったからと言って、やってしまうとまずいのではないか。

須藤委員長：別にいいと思う。取り下げるといふのではなくて、出さない。

梅村議長：イメージとしては取り下げるといふより、取り上げられなかったのもう一回出すかどうかという感覚で捉えていた。

堀委員：実施計画は3年ローリングである。

梅村議長：乗ってないので、そういうことにはならないと思う。

片岡委員：報告書を見させていただいた。数値的なものがいろいろ出ているが、タブレットを入れることによって、議会は具体的にどう活性化するのか、どう効率化になるかというのが、この計画書からは私は読み取れないと感じた。そういう議論を議会の中でもすべきだと思うし、下げることでゼロになると思ってなくて、それを検討することで前進できる方向性もあるのではないかと思う。下げるのが後退することではなく、前進のための取下げ、もう一度検討するという考え方でいかがか。

榎谷委員：すみません、会派の中で検討していないので、予算要求というものと、実施計画に入れるということが、ICTも自己負担をどんなふうにするか、具体的に政務調査費の中でもっとこういうものは持つとか、細かい議論はもっとやっていかなければいけないというところで、全部、市が負担すべきという形ではなかったと思う。そういうのは具体的に、実施計画として、取り下げるといふことは、今までの方向としては、どうなのかなと思うので、出すべきだと思う。

須藤委員長：梶谷さんが言っていることは少し違っている。個人負担を検討するのであれば、出さずにそれを決めてから予算要求になると思う。ICT報告書というのは出されただけで、その後、審議していない。私は読んだが、ペーパーレス化のことも出てないし、最初、タブレット導入の時にペーパーレス化になるから導入しようという話だったと思う。それが変な方向に行ってしまうと、報告書についても議論し直さなければいけないと思う。

梶谷委員：報告書はまとめたことで、2年間か、1年間か、やってきた中で。

須藤委員長：最終まとめは、チームの、だけど、この中にペーパーレス化のことも書いてない。私としては一から作り直して検討したほうがいいと言っている。

片岡委員：これを無しにするということではなくて、これはたたきになると思うが、やはり効果、これを入れることによって、どう議会が市民のために良くなるかというところを議論すべきではないか。効果が見えるようにしないと、やはり税金を使って入れるので、市民に対して説明できないし、なんか良さそうだねでは通らない話なので、そういった議論がチームでどうされたか、経緯はわからないが、この資料ではわからないので、そういった議論をする上でも、もう一度検討してくださいという考えである。

須藤委員長：全員でやった方が良くかもしれない。議会基本条例推進協議会の中で全員で議論した方が良くかもしれない。

片岡委員：あわせて、チームで決めたことが議会として決めた事なのか、それとも、チームはあくまでもチームで議会に報告をする、議会でもう一回協議するのかということルール化されているのかわからない。

須藤委員長：チームで出されたのは議会基本条例推進協議会、それから議運

片岡委員：であれば、これはあくまで報告である。全体で協議していない、それは問題だと思う。この報告書について、報告で終わっているのであれば、それは通せない。

堀委員：報告書だけにとらわれて云云かんぬんではなくて、去年は議会として、総意で、議長の決定というのは、責任を議長が、全員の責任を負うとして出した。それを重く感じるべきではないか。それが継続性である。

片岡委員：どこかに条文のようなものがあるのか。

堀委員：無い。

片岡委員：感情ですよ

堀委員：感情ではない。議会としての当然のあり方ではないか。

片岡委員：あり方は良いけど、それがルールになっていないのであれば、あ

くまでもそれは理想で、それを言い出すと収集つかない。

堀委員：なんでもかんでも条文化されているとか、慣例だって法令であるし、全部文言になっているわけではない。

片岡委員：もちろんそうだが、そんな重要なことを、議長が責任を負うというのは。

須藤委員長：議長は替わった。

堀委員：替わったからと言って、ゼロベースという言葉にしたが、そういうことは、交代したからといってそうではないということ。

須藤委員長：私が思うのは、議長が責任を負うと言われて、何も責任を取ってないでしょ。当局はどういう答えを出されたか、1回目だけでしょ、その後は答え出してないよね。予算が通らない結果の。

堀委員：それを受けて議会で話し合っていないから、そこで終わっているからだめだと言っている。

堀委員：この前の話を蒸し返すけど、いくらチームを作ったところで、全然足りていないところもあるし、もっと踏み込めばいいが、過去1年2年やってきた中では、いろんな議会が視察に来て、そこで導入しているところの話を聞いたり、そこで入っていない話もあって、須藤さんも最初良いねと言って、言ったわけだ。

榎谷委員：急に変わったね。

堀委員：みんな良いと思っているし、だれも1台ずつICT化のためにいらないと言う人はいない、それが市民にどう見えるか。

須藤委員長：市民からそういう声が出た。

堀委員：ペーパーにはなっていないけど、データとして出ているし、各自治体の導入している先進事例も出てるし、それを聞いて知っている。

須藤委員長：失敗事例も聞いている。

堀委員：失敗事例があるからと言って、方向としては、みんな入れようということでは一致した、推進協議会では。

須藤委員長：全員一致していない。

榎谷委員：途中から急に変わった。

須藤委員長：視察に行っただけ、予算が... 視察に行っただけ。小牧と江南。

堀委員：最初は、これは便利になって良いねという感触を受けたはず、データとしてもそうだし、見聞きしてきた。

片岡委員：私も反対ではないですよ。プロセスの話。これは全員で揉まなくてはいけない。出してだめなものをなんで出すんですか。

堀委員：だめかどうかは知らないが、だめだと言うこと自体が...

須藤委員長：議会報告会の時に、市民がサポーター制度を取り入れた時に、なんで勝手に入れるんだ、その予算を使うんだということがあった。

堀委員：サポーターの中でもなんで早く入れないんだという意見がある。いろんな意見がある。それを議会で決めれば良い話であって、議論が足りていないのも事実。

榎谷委員：実施計画に出したからといって、議論が終わりではなく、やっていかなければいけない中身は、財源の問題や、もっといっぱい、実施計画出したから終わりとは思っていない、議論が足りないところはやっていかなければいけない。

鬼頭委員：片岡議員が言っているのは、実施計画を出すための、しっかりした議論をしてから出すべきだと、ただ出すだけでは同じ結果になる可能性もあるので、もう一度なぜいけなかったか、そこを見直す、そういったところを議論して、今回出さなくても、決めるのは当局なので、それはちゃんと議論した方が、議員も変わりましたから新しい議員に、その整合性も取らないといけないと思う。

須藤委員長：そうすると、創政会はまだ検討すべき、公明党も同じ意見、真政会と共産党が出したほうがいい、分かれました。どうしましょう。多数決で決めますか。

堀委員：譲歩するのであれば、仕事の専門的にやっていた片岡さんが入ったわけだから、スピード感持ってやってほしいので、案の足りないところを責任もって加筆して、チーム長になって、そういうのが理想かなと思った。

須藤委員長：チーム長か、チームでやるのも…。

堀委員：15人でやっていたって、無理。

須藤委員長：予算の期限には間に合わない

堀委員：期限に間に合わないかもしれないが、来年度にきちんとしたものを挙げられるように前進していただきたい。

須藤委員長：来年度に向けてということで、推進協議会で決めるのか、チームは。

榎谷委員：チームで、今までの教訓で、チームで和を持ってやる、それを基本条例推進協議会の全員の中で報告をしてもらって、議論を深めるパターンをきちんとやっていく。

片岡委員：チームに入るのは全然かまわない、協力して議論していきながらこういう形で議会として出しましょうということであれば協力します。

須藤委員長：わかりました。

梅村議長：岩倉市議会としてICT推進というのは、みんなで一致してやっていこうという方向だが、実施計画に挙げるというものは、議員の総意というか、議会でこれが優先だということで挙げたほうが、実施計画も取り上げられやすいというか、そういったところを含めてみんなで一致できるようなもので挙げていけると良いのではないかと思う。

須藤委員長：それでは、議会基本条例推進協議会に戻して、そちらでチームの編成をして、やっていただくということによろしいですか。

各委員：（了承。）

須藤委員長：では、そのようにします。

（３）「市議会サポーターの声」について

議会事務局長：先週の金曜日までに各会派で話し合っていたいき加除したものをサポーターの意見に対して回答をいただくということになっていたが、今、配ったものについては、各番号の下に「・」があるが、これは議長からいただいた修正案である。それ以外の会派からはいただくことができなかったもので、そのものを反映した資料を配った。

須藤委員長：他の会派は良かったか。

堀委員：話し合う時間がありませんでした。

須藤委員長：今日は持ち帰りか。

堀委員：私は自分の意見は持ってきました。

須藤委員長：それを出してもらって、議論が必要。

堀委員：出したほうが良いか。

須藤委員長：出した方が良い。

堀委員：榊谷さんは手書きで書いている。

榊谷委員：まとめきれなかったから、あまりにもあっさりしているから、もっととかいろいろ思った。

須藤委員長：では、どうしましょう。回答出せないですね。回答の追加があったら出してください。

堀委員：みんなで出し合って、どういうふうにまとめていくか、大変だと思う。

須藤委員長：まとめるのが大変。

片岡委員：回答の仕方もどのようにしていくか方向性を決めないといけない。

須藤委員長：今まではどうだったか。議運でまとめてであったか。

議会事務局長：前堀委員長の案を議論しそのまま返した。前回のケースはそういう形であった。

須藤委員長：そういう意見があったから、追加したほうが、共産党がそう言っていたから、付け足して、また議運でまとめる、最終的には議運で、追加とかあったら出してほしい。

堀委員：出すのはやぶさかではない。

須藤委員長：本来は改選前に回答したかった。

榊谷委員：早く回答を、と言われていたから。

片岡委員：どれくらいのスパンで返すのかも含めて、1月とかの質問もあるので。

榊谷委員：懇談会もやっているから、そこで出している人もいる、口頭で、サポーターと議員との懇談会をやったから、1月からの、そういう時に出された人もいた、口頭で。

須藤委員長：52番からである。その答えは、どうやってやるか決まっていない、どうやってやるか、ルール化していない。

片岡委員：もう1年やることは決まったので。

須藤委員長：ICTチームとか、サポーターチームとか、一からメンバーを決めて、ルールを決めなければいけない。

梅村議長：もちろん、この制度が未完成な部分はあると思うが、今後チームを作って決めるのか、決めていかなければいけないが、今は52番以降のものが出ているので、この回答は、回答していかなければいけないという状況かと思う。

堀委員：サポーター制度ができた時に、議会改革推進協議会の中で、出てきたものについては、サポーターは何のためにあるかということ、議会運営について意見するためのサポーターである。だから、議会運営委員会でやるということを決めた。だが、議会運営以外のことも言ってきたから、それについてどうしようかということころは、別な話である。

須藤委員長：まだ決めていないね。

梅村議長：やらないということになっている。

須藤委員長：出さなくても良い。

梅村議長：そういう回答でも良いと思う。議会運営のことではないので回答しません。

堀委員：それではあまりにも冷たいから。

梅村議長：そのとおりで前回も配慮して、回答を作ったので、議会にも政策提言という分野も出てきているので、やれる範囲で答えたほうが親切ではないか。

堀委員：サポーターが言っていることが、変だなと思うことがいっぱいある。

返し方は難しい。

梅村議長：今後は、出てきたらどのタイミングで返すか、ある程度溜めてから返すとか、そういうことは決めていかなければいけない。今回、まず、52番以降をやらないとというところである。

須藤委員長：1年経つから、任期満了になるから、任期満了はいつであったか。

梅村議長：任期は7月末で、7月11日の意見交換会には資料として出して、というところ。

須藤委員長：定例会中には終わらせないといけない。

梅村議長：6月中には完成したい

須藤委員長：いつまでにするか。議会中はやりたくないから、追加や削除の案があれば出してもらって、事務局へ、それをまとめてもらわなければいけない、それを審議しなければいけない、議会が終わってからでいいか。

榊谷委員：議長の追加したいのは丁寧に書かれてあるから、早めに出したほうが良い。60番は執行機関のこと。

堀委員：執行機関と協議するという回答が多いが、議会はそうなのか。どういう機関で協議するのか。違うと思う。そもそもの考え方が。

梅村議長：そうだと思う。私もそれは感じた。なるべく議会の中で解決できるように、どうしても伝えなければいけないことは伝えるということで、伝えるという表現は迷っているが、なるべく議会の中でやれる回答がいい。

須藤委員長：議会では答えが出ない。

榊谷委員：サポーターの意見は、議会運営のことに絞るということで、そういうところは全部省くとか。

須藤委員長：来た時に、議会運営についてでなければ返すとか、それを判断するのはだれか、事務局でやるか、議会運営だけについて質問をもらう、個人的なことは個人に質問するしかない、そういうふうに決めて説明会でもやらないと、だんだん質問が多くなってしまう。

鬼頭委員：ある程度制約したほうがいいのかもわからない。

須藤委員長：それか、個人宛に出すか。

須藤委員長：みなさん、これを持ち帰って読んでもらって、おかしいところがあれば出してください。議会が終わった後、議運を開いて協議する。締め切りは、10日くらいいるか、事務局でまとめるの。

議会事務局長：ボリュームによると思う。

須藤委員長：一般質問終わるまで、常任委員会終わるまでにするか、12日までに出してください。それでまとめていただいて、議運を開くのを、

25日午前10時から議会運営委員会を開催します。市議会サポーターの
声について。

議会事務局長：広報委員会も入ってくるので確認する。

須藤委員長：6月、サポーターの声の意見を出すのは12日まで、それをま
とめて、議運を開くのが6月25日火曜日午前10時から、議会運営委員
会で審議しますので、よろしくをお願いします。

(4) その他

堀委員：前回までの議事録、今日、冒頭でも、記憶に頼って、要点でも要約
でもいいので、前回の議事録を提出していただきたい。

須藤委員長：前回の議事録...

議会事務局長：時間的に無理です。

堀委員：要約でいい。全部おこしをしろと言っているのではなくて。

議会事務局長：要約にしても同じですね、全部聞いて挙げなければいけない
ので。

須藤委員長：前の、前年度の。

堀委員：基本的にそういう、それこそルール化で、そういう意見も出た、要
約にしたらどうかという。議会改革推進協議会や代表者会議はやっていな
いか。

議会事務局長：やっていないです。

須藤委員長：推進協議会を出てる、遅れてるけど、議事録。

議会事務局長：議事録はあげているが、次回までに要約を必ず作るというの
は、やっているところは無いですし、時間的に無理だと思います。代表者
会は議事録自体を取っていないので。

梅村議長：何年か前は、7～8年前は前回の議事録がついていたが、議会改
革特別委員会のほう、ある方が良いが、ここ数年は前回の会議録が配られ
たことは、ほとんど無いので、事務局の中の状況があると思うが。

須藤委員長：式次第に書くでしょ、だいたい、それをとっておけば良いので
はないか。

梅村議長：今の時点では、できるだけ間に合うように努めているが、必ず出
せるところまで言えないので。

須藤委員長：要望でありましたので、事務局、局長お願いします。その他何
か。

議会事務局長：資料のとおり陳情書が出てきたので、ご一読いただきたい。